

■本実証実験について

今後のニューノーマル時代においては、テレワークをはじめ、さまざまなサービスのオンライン化が進み、通信設備の障害に加え、新サービスの開始やサービス利用の集中による設備上のボトルネック発生などの障害が想定されます。運用中のネットワークにこのような障害が発生した場合に、各事業者が連携するモデルケースとして、障害の検知・特定から、ネットワーク再構築による復旧までの一連の動作を実証し、以下の課題解決を図ります。

課題Ⅰ「AIによるネットワーク運用技術」(KDDI、NICT)

課題Ⅱ「AIによるネットワークサービス自動最適化運用制御技術」(日立、NEC)

課題Ⅲ「データ連携によるネットワーク機能的制御技術」(OKI、KDDI)

■各社の役割とこれまでの成果

	役割	成果
KDDI	ネットワーク事業者	・AIを活用した障害検知、特定、ならびに復旧対応により、ネットワーク事業者のネットワークサービス品質の維持・向上を実現するための技術の確立
	サービス事業者	・「AIネットワーク統合基盤」とのデータ連携により、IoTサービス制御機能の動的制御を行い、サービス事業者のIoTサービス品質を維持・向上する技術の確立
日立	システムインテグレーション事業者	・AIを活用したサービス要件分析により、システムインテグレーション事業者が、人手を介さずにネットワーク要件に変換し、かつ継続してネットワークリソース利用を最適化する技術の確立
NEC	システムインテグレーション事業者	・AIを活用した設計、制御・更新の自動化により、システムインテグレーション事業者が、各種ネットワーク要件の擦り合わせを自動で行って具体的なネットワークの構成を設計・更新する技術の確立
OKI	サービス事業者	・「AIネットワーク統合基盤」とのデータ連携により、コンテンツキャッシュ機能の動的制御を行い、サービス事業者のオンデマンド配信サービスにおける品質を維持・向上する技術の確立
NICT	ネットワーク事業者	・AIを活用した自動資源調停および機能移行制御により、ネットワーク事業者のネットワークサービス品質劣化の原因となる事象を抑制するための技術の確立